ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

ワタミグループは、ワタミ理念に則り、環境・社会・人に対してやさしい存在になることを目指し、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマに掲げています。事業活動を超えた領域でもたくさんの“ありがとう”を集めるべく、社会貢献団体への支援を積極的に行っています。

公益財団法人 School Aid Japanへの支援

■外食店舗、介護施設、宅食営業所に募金箱の設置
…2013年度寄附金額1,381千円
■従業員が給与天引きで寄附できる体制の構築
…2013年度寄附金額40,755千円
■ワタミグループによる法人会員寄附
…2013年度寄附金額780千円

NPO法人 Return to Forest Lifeへの支援

■ワタミグループの会員数
…2013年度正会員38名、賛助会員1,620名、サポーター 4,924名
■ワタミグループ社員が「ワタミの森」の再生活動に参加
…2013年度1,503名
■「リターン トゥ フォレスト カクテル」の販売収益の一部を寄附
…2013年度寄附金額2,333千円

公益財団法人 Save Earth Foundationへの支援
(旧 公益財団法人 有機質資源再生センター)

■ワタミ株式会社の特別賛助会員への加入
…2013年度賛助会員費1,020千円
■ワタミグループによる循環モデル構築事業への寄附
…2013年度寄附金額10,500千円

公益財団法人 みんなの夢をかなえる会への支援

■ワタミグループ社員の参加
…2013年度会員数3,684名
■「みんなの夢シンポジウム」への協力
■「みんなの夢AWARD」への協賛

ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

公益財団法人 School Aid Japan

公益財団法人 School Aid Japan（以下、SAJ）は、2001年にNPO法人として設立されました。スタート時点ではワタミグループからの支援が中心でしたが、今では一般の方をはじめ、多くの企業様からの支援により運営されています。SAJでは、皆様からいただいた寄附金・会費は「全額、現地の支援費に使う」ことを原則として活動しています。また、何の支援に使われたのか、その使途を明確にしており、「現地の現実が変わったことを確認できる支援」を行っています。

活動目的

「一人でも多くの子どもたちに、
人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する」
子どもたちの夢を育み、健全な成長を促進すると共に、将来、自身に備わったすばらしい能力に気づき、それを伸ばし、そして、社会に貢献できる子どもたちを育成する事を目標にして、この活動を行います。

活動方針

「School Aid Japan」教育支援の3つの方針
1. 学校教育を充実させる
2. 地域に根ざした支援
3. 点から面への支援の広がりを目指す

バングラデシュに中・高一貫校の校舎が完成

公益財団法人
School Aid Japan
事務局長
住田 平吉

SAJがバングラデシュに教育支援に入って3年目になります。

現地のNGO·Basic Development Partners(BDP)様をパートナーとして、校舎建設支援（老朽校舎の建て替え）と「バングラデシュ国内の小・中・高等学校のモデル校」となる学校を目指して、「Narayankul Dream Model High School」を設立、生徒を募集し授業を始めました。教師も200人を超す応募者の中から16人を厳選しました。学校法人郁文館夢学園様の協力を得て、同校の古澤勝志先生と田中善将先生が現地に滞在して、生徒に良く分かる授業の指導法と学校運営に奮闘しています。

2014年8月4日、待望の鉄筋2階建て20教室の立派な校舎が完成しました。

学習意欲旺盛な生徒・誇りを持ち優秀な教師陣・大きく綺麗で立派な校舎、そして意欲溢れる2人の日本人教師のリーダーシップの下、順風満帆のスタートが切れました。

学校建設事業

開発途上国において、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。SAJでは、カンボジアなどの開発途上国において、学校の無い地域には小学校や中学校、幼稚園を建設し、倒壊の危険にある校舎や老朽化した校舎の再建築を行っています。

2012年度からは、バングラデシュでも学校建設を開始しました。2013年度、SAJが建設した学校は、累計でカンボジア184校、ネパール8校、バングラデシュ10校、計202校となりました。2014年度はカンボジアで20校、バングラデシュで4校の建設を予定しています。

カンボジアに建設された192校目の学校

就学支援事業

□ふれあいサポートプラン

開発途上国では、貧しさのために未就学の子どもや、入学しても途中退学せざるを得ない子どもたちがたくさんいます。

SAJは、2003年度より、貧しい家庭の子どもたちへの就学支援（制服上下1着・ノート・ボールペンなど文房具の提供）をすることで、学校で学習が続けられるように支援しています。

2013年度からは、SAJが建設した小学校のうち、カンボジア·コンポンチュナン州の14校750人、ポーサット州7校422人の子どもたちに制服、ボールペンなどの文房具を提供しました。

□奨学金貸与

SAJは、2013年度より、SAJが運営する孤児院から大学へ進学した孤児院卒園生を対象に、奨学金貸与を開始しました。2014年11月には、孤児院から2人目の大学生が誕生する予定です。

食の支援事業

開発途上国では、貧しさのために1日1回の食事がとれない子どもたちや、米代を稼ぐために、学校に入学せずに働いていたり学校を休んで働いている子どもたちもいます。そのような子どもたちに、学校での学習が続けられるよう2006年から、食の支援をしています。2013年度は、SAJが建設した小学校のうち、カンボジア・コンポンチュナン州の14校577人、ポーサット州の7校334人に対して、月10kgの米を支給しました。また、WFPの協力を得て朝給食を提供しており、2013年度はSAJが建設した小学校のうち、コンポンチュナン州12校2,749人、ポーサット州の14校5,516人に提供しました。さらに、米の保管方法や計量の仕方、帳簿のつけ方、盗難防止策などについても指導をしています。

朝食の様子

孤児院建設・運営事業

SAJは、2008年、カンボジア・ポーサット州に、孤児院「夢追う子どもたちの家」を開園しました。「80人の子どもたちの幸せのためだけに運営する」を方針とし、子どもたちが勉強する学習室や勤労の場として2haの農地があり、そこでは子どもたちが自ら計画し、農作業をしています。しっかりとした生活習慣とあるべき人格と学力を身につけ、自立するまでのサポートを行っています。

2014年3月末現在、72名の子どもたちが生活しています。また、2013年度に孤児院を卒園した子どもの中には、孤児院初の大学に進学した子、またSAJ Farmで研修生として働き始めた子もいます。

朝、孤児院から学校へ出発する中学生たち

就労支援事業（農業）

カンボジアでは、2010年に「SAJ Farm」を開設し、カンボジアの農業技術の向上と雇用の拡大、生活の安定を目指し、農業に取り組んでいます。

化学肥料を使わず、現地で手に入る肥料を使ってのレモングラス栽培や、米の二期作にも取り組んでいます。

2013年度は、地元農家の若者7名を職員として雇用しました。また、農業技術の向上の取り組みの一環として2013年8月より、月に一度、地元農家の方を集めて、耕運機の使い方の講習などの農業講習会を開催しています。

収益事業

SAJは、2012年度より、「SAJ Farm」で収穫したレモングラスをカンボジア国内の日系企業へ販売を開始しました。レモングラスは、「ROYAL レモングラスティー」などの商品の原料として使われており、商品は日本でも販売されています。2013年度は325,342円の売上があり、その収益は、カンボジアでの就労支援のための資金源としています。

出荷用のレモングラスを選別する若い職員たち

学校運営事業

SAJは、2012年度、バングラデシュの子どもたちへの教育の普及と教育水準の向上を図り、教員の育成とバングラデシュの教育モデルとなることを目的とした中高一貫校（Narayankul Dream Model High School、以下NDMHS）を開校しました。現地NGO·Basic Development Partners様と学校法人郁文館夢学園様の全面協力を得てバングラデシュのモデルとなるような学校を目指して運営を行っています。また、2013年度からはナラヤンクル小学校の運営も開始し、NDMHSと合わせて小中高一貫教育を始めています。

NDMHSでの授業風景

東日本大震災支援活動

SAJは、東日本大震災の発生に伴い、2011年3月より、災害支援活動を行ってきました。これまでに、災害募金を募集し、宮城県への物資支援、岩手県陸前高田市へのボランティアの募集と派遣、陸前高田市復興街づくりイベントの後援、経営勉強会の開催、おせちの配布などを行いました。

災害募金につきましては、2013年12月31日をもって受付を終了しました。宮城県・岩手県などから新たな支援申請がないため、現在は活動を中止しました。

SAJ ホームページ…http://www.schoolaidjapan.or.jp

ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

NPO法人 Return to Forest Life

2006年より、社員の有志で行っていた森を再生させる活動「森づくり」に、ワタミグループとして積極的に取り組むため、2007年10月、NPO法人 Return to Forest Life（以下、RFL）を設立しました。現在は、ワタミグループの社員を中心とする、多くの会員からの支援により、「美しい地球を子どもたちに残すため、一つでも多くの森を再生させたい」という思いのもと、「ワタミの森」を運営、管理しています。

活動目的

「美しい地球を子どもたちに残すため、
一つでも多くの森を再生することに貢献する」

活動方針

1. 不健全な森林を再生させる
2. 森林の資源の有効活用
3. 環境教育への貢献

森林再生の地域モデルづくりに継続して取り組みます。

NPO法人
Return to Forest Life
事務局長
小出 浩平

2013年度、私たちは森林再生活動を加速させました。2013年10月に長野県東御市に東御の森（約11ha）、11月には埼玉県に東松山の森（0.1ha）を開かせていただきました。更に、2012年度に森開きをした大分県臼杵市では、地域の皆様、行政、私たち民間団体との協働の森林再生事業をスタートさせました。

2014年度は、森林再生活動をより加速させるため、臼杵市をはじめとする各地域において、各ニーズに合わせた地域モデルづくりに取り組みます。

森林の多面的な価値（炭素吸収、水源、生物、土、里山など）は約70兆円あると試算されています（日本学術会議）。一方で、木材生産高は2,000億円に留まっており（平成24年度林野庁）、森林を木材供給のみで見ることは適切ではありません。私たちが目指す地域モデルとは、地域の皆様と共に、森林の多面的な価値を引き出し、持続可能な地域づくりを行うものです。例えば、私たちが間伐した木材がお店などの内装に活用され豊かな空間をつくり、木材チップがエネルギーとして地域の食品工場で使われCO_2ゼロが実現したり、あるいは都市の子どもたちが森林体験で地域を訪れ賑わいをもたらしたり、という活動が持続可能に実施されていることをイメージしています。この地域モデルの実現には、私たちはまだまだスキル不足であり、時間も必要となりますが、一歩ずつ前進したいと思っています。

私たちはこれからも、森林再生と地域の活性化に寄与しながら、“美しい地球を美しいままに子どもたちに残していく”という使命の実現を目指します。是非、皆様も活動にご参加ください。

RFLが行う「森づくり」

人工林に手が入らない状態で放置されると、土砂の流出や水源涵養機能の低下をもたらし、災害にも弱い森林になる恐れも出てきます。きちんと管理され生態系が維持された森は、きれいな水をつくり、災害に強い土壌をつくり、そして光合成を行うことによって二酸化炭素を吸収し酸素を作り出して、私たちが住んでいる地上を住みやすい環境に維持してくれます。

RFLが行う「森づくり」では、荒廃している山林を適切な管理を施すことにより少しずつ元の姿に戻し、たくさんの生き物達を森に呼び戻すことを主な目的としています。多くの生き物にとって森はふるさとであり、そのふるさとである森を次世代の子どもたちに健全なかたちで引き継いでいきたいと考えています。

間伐後、光が入るようになった森

不健全な森林を再生させる

日本は国土面積の約3分の2が森林であり、その約4割が杉・ヒノキなどの人工林であると言われています。その人工林のうち、さらに約4割が人の手が入らず不健全な状態（全森林の約16%、約400万ha=九州の面積）にあります。この不健全な人工林を適正に管理（間伐、下草刈り、枝打ち、植樹など）することによって、多様な生き物たちが存在する里山のような自然林、あるいは健全な人工林に再生させる活動を行います。

森の再生において最も大切なことは、その土地に合った目標林形を定め、再生計画を立案することです。RFLは、専門家（株式会社森林再生システム様）のご協力のもと、森林の調査を行い、再生計画を立案するところから始めています。

RFLは、2013年度、再生計画に基づき、「ワタミの森」において462本を間伐し、新しい命として1,001本（内600本は針葉樹）の植樹を行いました。

2013年4月、千葉県山武市「ワタミの森（日向の森）」において杉の植林を初めて行いました。現在、針葉樹の人工林が荒れている中で、これから30～50年後に活用できる材を残すことを目的としています。

間伐作業の様子

森林資源の有効活用

森林の再生活動により伐倒された間伐材は、活用せずに放置すると腐敗してCO_2を排出するだけでなく、土砂崩れなどの災害の原因となります。この伐倒された間伐材を適正に活用することによって、森林再生活動を促進させ、国産材の自給率向上、海外森林の違法伐採の防止に貢献し、その結果として、関係する地域産業に貢献することになると考えています。

間伐材でつくったせいろとお盆

「ワタミの森（日向の森）」に設置したトイレの建材として、間伐材を使用

環境教育への貢献

環境活動、地球資源（森林）保全への貢献において、もっとも大切なことは、環境負荷を出す人の行動が変わることです。RFLは、ワタミグループ社員を含め、すべての人に対する環境教育の場の提供に貢献したいと考えています。環境教育では、森の活動の注意点などを伝える安全講習を行い、森の中を歩きながら再生活動について説明します。そして実際に間伐や植樹、下草刈りなども行います。2013年度は、「ワタミの森」だけでなく、地域のNPO法人様にご協力いただきながら、兵庫県篠山市、大阪府箕面市でも環境教育を行いました。

2013年度は、ワタミグループ社員1,503名、学校法人郁文館夢学園様の中学生142名、東京都大田区の小学生54名に、環境教育に参加していただきました。

2014年度は、市民の方を対象とした環境教育の場の提供も行っていく予定です。

森林の再生活動について説明している様子

ワタミの森の拡大

□東松山の森

RFLは、ワタミ手づくり厨房東松山センターで、2011年より行われている植樹活動を支援しています。2013年11月には、「ワタミの森（東松山の森）」となりました。

□東御の森

RFLは、2013年10月、長野県東御市と森林保全協定を締結し、東御市有林の一部（約11ha）を「ワタミの森（東御の森）」として協働で森林保全活動を開始しました。「東御の森」の近くには、ワタミファーム東御農場と学校法人郁文館夢学園様の施設・志高館があり、2014年6月には、学校法人郁文館夢学園様の生徒を対象に農林業体験の一環として、環境教育プログラムを初めて実施しました。今後は、東御農場と連携し、有機循環型地域の構築を目指します。

□臼杵の森

RFLは，2014年5月、ワタミグループ、大分県臼杵市とともに「水源涵養の森林づくり」の協力に関する共同宣言の調印式を行いました。この共同宣言にて、臼杵市がすすめている森林再生事業に、3団体が連携して「森林経営計画」のもとで森づくりを行っていくこととなりました。また、今回の調印により、新たに50haが「ワタミの森」となりました。

RFL ホームページ…http://www.returntoforestlife.or.jp

ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

公益財団法人 Save Earth Foundation

(旧 公益財団法人 有機質資源再生センター)

公益財団法人 有機質資源再生センターは、2014年10月より名称を改め、公益財団法人 Save Earth Foundation(以下、SEF)として活動しています。SEFは、食品廃棄物をはじめとする有機質資源等を減量化、再資源化し、農畜産業等において再生利用をすることを目指してきました。有機質（有機性廃棄物）を利用可能な資源として再生することで、廃棄物の資源循環を実現し、併せて、森林再生・保全活動にも取り組み、それを通して地球温暖化の防止に大きく貢献することを目指しています。

活動目的

美しい地球を子どもたちに残すため、限りある自然資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献する。

活動方針

1. 自然資源の地域循環と再生利用システムを構築し普及させる
2. 不健全な森林を再生させる
3. 環境意識向上のための、よりよいきっかけを提供する

地球環境（自然資源）を継承するために行動する財団へ

公益財団法人
Save Earth Foundation
事務局長
福井 聡

日ごろは当財団に多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。関係する全ての皆様に御礼申しあげます。2013年度は、財団の存在対効果を高めていくために、従来の普及啓発を中心とした活動から、公益に資する事業活動を展開していくための準備を進めてまいりました。財団の名称も公益財団法人 Save Earth Foundationと改め、地球環境（自然資源）を未来の子どもたちに継承していくために行動していく財団へと発展させていく所存です。

2014年度、資源循環創造事業においては、私たちの「食」から発生する残渣等を未利用資源として捉え、これらを再生利用していくための仕組みづくりを提案していきます。コストアップを抑えリサイクル率を向上させる新しい仕組み（廃棄物管理から資源管理へ）を構築し、業界や地球環境に貢献してまいります。森林保全・再生事業においては、NPO法人 Return to Forest Lifeとの協働による森林保全活動を開始いたします。2015年にはこのNPO法人Return to Forest Lifeとの合併を予定しており、より活動が広がっていくものと確信しております。食品リサイクル率100%、森林再生関与面積5,000haを目指しての新しい船出です。どうぞご期待ください。

循環型社会創造事業

□食品リサイクル推進のため、マッチングサイトを整備

SEFは、2010年度より、食品残渣の飼料化を推進するための取り組みとして、食品残渣の処分に困っている食品関連事業者や、エコフィード（食品残渣等を利用して製造された飼料）を利用したい養豚事業者などを対象に、飼料化に関する質問や相談に対応したり、飼料化事業者を紹介したりするためのポータルサイト「食品リサイクルマッチング」を運営しています。

2013年度は、「バイオマス資源総合利用推進協議会」からの委託を受け、このサイトを飼料化だけではなく堆肥化・エネルギー化といったすべての食品リサイクル技術に対応したものへと整備しました。この結果、サイト掲載の再生利用事業者数は31社から69社に増加し、より広いニーズへの対応が可能となりました。

□食品残渣等の飼料化のための分別マニュアルを作成

SEFは、2013年度、農林水産省が飼料自給率向上を目指し、未だ活用されず廃棄されている食品残渣等の飼料利用を推進する「エコフィード緊急増産対策事業」のうちの、「食品残渣等飼料化分別普及体制構築事業」を受託しました。

また、食品産業の中でも、特に卸売業・小売業・外食産業における食品残渣等の飼料化を進めるための分別マニュアルの作成に取り組みました。この事業は2014年度も継続して受託し、2014年度中のマニュアル完成に向けて取り組んでいます。

普及啓発事業

SEFは、食品関連事業者、再生利用事業者、生産者、行政および一般消費者に対し食品リサイクルに取り組むための知識を習得する機会を提供し食品リサイクルの重要性を伝えています。

□ダンボールコンポスト講習会の開催

SEFは、2013年度、家庭から出る食品廃棄物の排出抑制の取り組みの一環として、行政との共催により、一般の消費者を対象とし、ダンボールを使用して家庭生ゴミを堆肥化する取り組みを普及させるため、東京都八王子市と昭島市で、「ダンボールコンポスト講習会」を開催しました。

講習会では、ダンボールコンポストキットを用いた生ゴミ堆肥化の基礎知識や技術についての説明を行い、2013年度は、12回の開催で、合計426名の市民の方が参加しました。2014年度も継続して実施する予定です。

ダンボールコンポストキットを使用した生ゴミの堆肥化

□「食品リサイクルサロン」の開催

SEFは、2012年度より、食品リサイクルへの関心を高め、理解をさらに深めるための勉強の場として、「食品リサイクルサロン」を定期的に開催しています。2013年度は、合計5回開催し、リサイクルを推進する上で障害となっている課題について、それに係わる方を講師に迎え、解決の糸口を探る方法を様々な角度から学ぶ場となりました。また、食品リサイクルサロンでの理解を深めるため、食品リサイクル事業者などを実際に訪問する「食リサロン特別企画 エコツアー」を2回開催しました。

「食リサロン特別企画エコツアー」の様子

□「食品リサイクル・サロン フォーラム2014」の開催

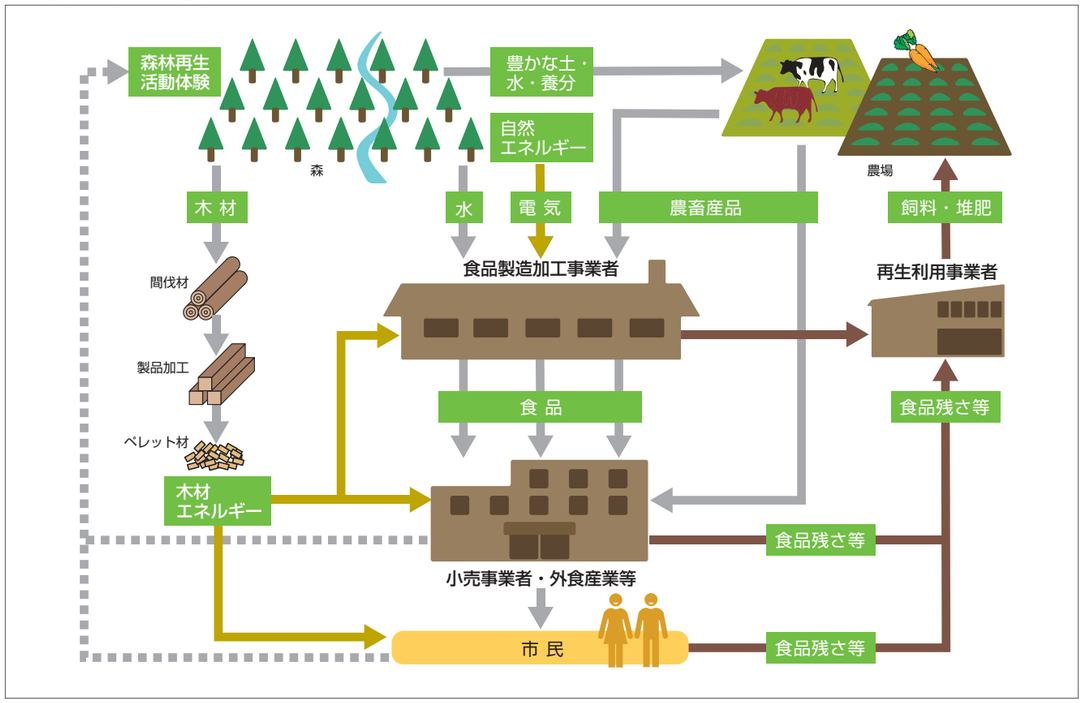
SEFは、2013年度、1年間の普及啓発事業の総まとめとして、食品リサイクルに関する活動を振り返るとともに、参加者に食品リサイクルに対する見識を深めるきっかけとしていただくことを目的として、「食品リサイクル・サロン フォーラム2014」を開催しました。食品関連事業者、再生利用事業者などからの参加に加え、多くの一般消費者も参加され、農水省食品産業環境対策室長の講演やパネルディスカッションなどを実施しました。

「食品リサイクル・サロン フォーラム2014」

今後の取り組み

SEFは、これまでは、食品残渣の活用などに関する相談・助言や普及啓発などの側面支援が中心でしたが、2014年度からその事業内容を大きく見直し、自らが食品リサイクルの仕組みを企画開発し、再生利用事業者との連携を図りながら、食品関連事業者から排出される廃棄物の管理を受託し、資源循環の仕組みを構築し推進する「循環型モデル構築事業」に着手します。また、NPO法人 Return to Forest Lifeと統合し、食品残渣等だけでなく、広く自然資源が地域循環する社会の実現に向けて、その活動を拡大していく予定です。

SEFが目指す、自然資源の循環型モデル



SEF ホームページ…http://or2.or.jp

ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

公益財団法人 みんなの夢をかなえる会

公益財団法人 みんなの夢をかなえる会（以下、みんなの夢をかなえる会）は、2010年11月に、特定非営利活動法人の認証を取得しました。2013年5月には、NPO法人みんなの夢をかなえる会の事業を一般財団法人みんなの夢をかなえる会に移管し、2014年3月、内閣府より公益認定を受け、現在は公益財団法人として活動しています。
本来、夢をもつことは、平等に与えられた人間の権利です。しかし、その権利が何らかの理由で持てない人々が世界にはたくさん存在します。すべての人々が平等に夢をもつことのできる社会を目指します。

活動目的

「みんなの夢をかなえる会」は、「多くの若者が、自分と社会の未来に“責任”をもつ“夢”を実現できる社会にしたい」という考えのもと、人・地域・日本の活性化を図ることをミッションに掲げています。「夢をかなえるきっかけ」を世の中に広く訴求し、「夢の途中」の人々を応援します。

活動方針

1. みんなの夢シンポジウム（みんなの夢と社会貢献を考える）
2. 未来の名刺プロジェクト（5年先の自分の名刺で夢の発信）
3. みんなの夢AWARD（夢を語り、夢を実現させる活動）

国内最大のソーシャル・イベント「みんなの夢AWARD」を開催

公益財団法人
みんなの夢をかなえる会
業務執行理事／事務局長
中川 直洋

公益財団法人みんなの夢をかなえる会は、これからの社会、これからの若者を応援し、夢溢れありがとうが飛び交う社会の実現に向け、公益性の高い活動を行っています。

みんなの夢をかなえる会の活動目的は、みんなの夢でよりよい社会を創造することにあります。「未来の名刺」の普及活動、「みんなの夢シンポジウム」、「みんなの夢AWARD」の開催が主な活動内容です。

「みんなの夢AWARD」は、「みんなをワクワクさせ、みんなが夢をもちたくなること」をコンセプトに開催され、2013年度も、日本武道館にて約8,000人の方にご参加いただきました。また、たくさんの学生が集まるソーシャル・イベントとして認知されています。

日本一の夢に輝いた吉藤 健太朗さんには、ワタミグループからも支援が決定され、本格的に活動しています。

「みんなの夢シンポジウム」

みんなの夢をかなえる会は、「夢溢れ"ありがとう"が飛び交う社会」を目指し、代表理事でありワタミグループ創業者の渡邉美樹による、みんなの夢と社会貢献を考える「みんなの夢シンポジウム」を開催しています。渡邉美樹と考える「みんなの夢」をテーマに、2013年度は、2回開催し、1,100名の方々にご参加いただきました。

今後も、参加いただいた皆様と夢の大切さを共有し、一緒に元気になれるようなシンポジウムを目指していきます。

みんなの夢シンポジウムの様子

「未来の名刺プロジェクト」

「未来の名刺プロジェクト」は、夢の実現に役立つ場となること、まだ夢が見つからない人が夢を見つけるためのヒントを得られる場となることを目的として生まれました。

「未来の名刺」のWEBサイト（http://www.miraimeishi.net/）では、“5年先の夢を名乗って、未来の名刺を作ろう”というコンセプトのもと、すてきな夢を持つ方々にその夢を投稿していただきます。（5年先の肩書きで名刺を作成し、5年先への道のりを作成していただきます。）

投稿された夢は「未来の名刺」としてWEBサイトに掲載されます。「未来の名刺」に掲載されると、「みんなの夢AWARD」にエントリーすることができます。

2013年度末現在、約2,406名の方に投稿していただいています。

□「未来の名刺教室」の開催

みんなの夢をかなえる会は、2013年度、東京都渋谷区の小学校とワタミ株式会社の株主総会にて、小学校高学年を対象とした「未来の名刺教室」を計2回開催しました。「未来の名刺教室」は「未来の名刺」をテーマに、夢を仕事にしてほしいという思いで開催しており、子どもたちに夢を具体的にイメージし、夢をかなえるまでの道のりを考えるきっかけを提供しています。

2014年8月には、初めて児童養護施設で実施

子どもたちが描いた夢のイラスト

「みんなの夢セミナー」

みんなの夢をかなえる会は、就労を通じて夢を実現する為の専門知識を学べるための場として、「みんなの夢セミナー」を開催しています。これまでは、「みんなの夢AWARD」の二次選考を通過した応募者のみを対象にしていましたが、2013年度からは、みんなの夢AWARDエントリー者や未来の名刺登録者にもその対象を広げました。講師陣も幅広い分野の方を迎え、合計3回開催しました。2014年度は主に学生を対象としたセミナーを中心に年間20回以上の開催を予定しています。

「みんなの夢AWARD」

「みんなの夢AWARD」は、「みんなをワクワクさせ、みんなが夢をもちたくなること」をコンセプトに2010年より毎年開催されています。審査の基準は①みんなをワクワクさせ、世界をちょっと良くする夢であること ②夢を具体的に描き、かなえるための計画を立てていること ③毎日、夢に向かって少しずつでも前進していることです。アワード受賞者には2,000万円分のサポートが贈られます。

□「みんなの夢AWARD4」の開催

2013年度には、第4回目となる「みんなの夢AWARD4」を日本武道館にて開催しました。

最終選考に残った7名の中からアワードを受賞したのは、吉藤健太朗さん。家や病院のベッドから動けなくても「会いたい人に会え、行きたい所へ行け、社会に参加できる未来」を創ることが夢だと語りました。

日本一の夢の祭典
みんなの夢AWARD4

□第4回「みんなの夢AWARD4」

- ●開催日：2014年2月13日
- ●場所：日本武道館
- ●参加者：約8,000名
- ●協賛企業：58社
- ●参加学生団体：134団体

アワード受賞の様子

お知らせ 2015年2月には、第5回目となる「みんなの夢AWARD5」を日本武道館にて開催する予定です。

□「みんなの夢AWARD For Youth」初開催

みんなの夢をかなえる会は、2013年度、夢を持つ学生が、自らの夢を語れる場を増やそうという思いから、学生を対象とした夢を発表するイベント、「みんなの夢AWARD For Youth」を初開催しました。「みんなの夢AWARD4」の2次選考を通過した学生5名が、自分たちの夢を発表しました。プレゼンテーションの場を経験することで、3次選考に向けての改善点などを見つけ、さらにプレゼンテーションスキルを磨いていくことを目的としています。

「みんなの夢AWARD4」の2次選考を通過した学生が発表している様子

□「みんなの夢達成プロジェクト」発足

みんなの夢をかなえる会は、2013年度、「みんなの夢AWARD4」ファイナリスト7名の夢の実現をサポートするため「みんなの夢達成プロジェクト」を発足しました。支援を表明した協賛企業との面談のセッティングや、ファイナリストに向け定期的なアドバイスを行っています。

また、「みんなの夢達成プロジェクト」を通じて、協賛企業様とファイナリストとの契約が実現しました。

□「みんなの夢アカデミー」

みんなの夢をかなえる会は、2014年9月より「みんなの夢AWARD5」の主催団体の一つでもある、さわかみ一般財団様と連携して、「みんなの夢アカデミー」が開講されました。「みんなの夢AWARD5」のエントリー者を対象としたソーシャルビジネス講義、ファイナリストを対象としたプレゼンテーション講義を行います。一人ひとりが夢をカタチにするために、事業創造できるような講義内容となっています。

みんなの夢をかなえる会ホームページ…http://minnanoyume.org